

第6回 長岡京市緑の基本計画策定委員会 会議概要

- 開催日時： 令和8年2月10日(火)午前10時00分～午前11時30分
- 開催場所： 長岡京市役所 2階 会議室 202
- 出席委員： 森本委員長、宮前副委員長、平野委員、山本委員、吉岡委員、田中委員、鞆岡委員、志水委員、所委員【以上9名】
- 欠席委員： 小山委員、藤井委員【以上2名】
- 傍聴者： 0名
- 幹事： 兒島理事、碓環境経済部長、中島教育部長、日高建設交通部長
【以上4名】(能勢総合政策部長欠席)
- 配布資料： ・次第
・資料1 長岡京市第2次みどりの基本計画(案) パブリックコメントの結果報告等
・資料1-1 「長岡京市第2次みどりの基本計画(案)」に対する意見募集の結果について
・資料1-2 Voice NAGAOKAKYU(ボイス ナガオカキョウ)
「R7 長岡京市第2次みどりの基本計画」への意見の内容と市の回答
・資料2 みどりの基本計画(最終案)
・資料3 みどりの基本計画(概要版)(最終案)
・参考資料 第5回長岡京市緑の基本計画策定委員会 会議概要
・配席図、計画修正案

会議記録

1. 開会

- 事務局： 委員会の成立については、11名の委員のうち9名が出席であり、半数以上の出席があるため成立する。
・配布資料の確認

2. 市長挨拶

3. 議事

- 委員長： 議事について、事務局より説明をお願いします。

- 事務局： (資料について説明)

- 委員長： 資料について、質疑、意見等をお願いします。
今回は最終回の委員会であるため、言い残しのないよう、各委員から少なくとも一度はご発言をお願いしたい。

- 副委員長： 計画の第4章では「市民・行政・民間事業者等」の三者連携が示されているが、「専門家」や「市民団体」がどこに位置づけられるのか分かりにくい。民間事業者等の「等」

に含まれるのか。また、既にボランティア活動を行っている団体がどの立場にあるのか、市民には判断しづらいのではないか。

事務局： 市民団体やボランティア活動団体については、「民間事業者等」に含めて整理している。77ページでは、連携・協働の具体的なイメージを持っていただくため、写真を用いて例示している。緑のサポーター、緑の協会、緑化や緑地保全に取り組む団体など、幅広い主体と行政が連携しながら計画を推進していく考えである。

委員長： 市民団体だけでなく、「専門家」との協働も分かる表現があつてよいのではないか。例えば、府や大学、研究機関と連携した自然調査や保全活動なども想定される。専門的な協働の重要性が伝わるよう、検討いただきたい。

委員： 用語集への追記は確認したが、その点がもう少し目立つ工夫があつてもよい。また、表紙の色味がやや沈んで見え、計画のもつ「緑」や「ゆとり」といった印象が弱く感じられる。より鮮やかで、長岡京市らしさが伝わるデザインでもよいのではないか。

事務局： 色味などは印刷機によるものであり、製本印刷時には質感や色味が変わると思う。

委員： 表紙の文字バランスについて「風格とゆとりある～」の部分が長く見える。文字配置や文字を置く位置について調整してはどうか。

70ページの「農地」を「農地等」とする修正案はどこに反映されるのか。

事務局： 資料2の70ページの具体的な施策の中で「良好な自然的環境である農地等」と修正している。

委員： 資料2の76ページのイラスト（手に苗木が乗っているもの）は、みんなでみどりを育てていくというイメージがあり良い。表紙にもそのようなイメージ写真があつて良いなと思っていた。

委員長： 76ページのイラストは概念的でよいと思うが、一方で、表紙は「長岡京市らしさ」をより強調する方向が望ましいのではないか。

委員： 表紙の写真がやや薄く感じられる。もう少し鮮明な方がよいのではないか。

副委員長： 裏表紙の写真について、公園や広場が大きく掲載されているが、緑豊かな住宅地などの写真でもよいのではないか。

委員： 子どもが活動している写真が少ない印象である。掲載可否の問題はあるが、緑の協会での活動写真などが掲載できればよいのではないか。

事務局： 西代里山公園で子どもたちが遊んでいる写真なども含め、いただいた意見を踏まえ、色構成や文字バランス、写真の使い方を工夫したい。

委員： 77ページの写真に特定の団体が代表例として掲載されているが、他にも多くの団体が活動している。西山森林整備推進協議会を掲載した意図を教えてください。

事務局： 行政のみでは計画を推進できず、市民や民間との連携が不可欠であることを分かりやすく伝えるため写真を掲載した。掲載団体は「誰でも気軽に参加できる活動」の一例

- として選定したものであり、特定団体を特別視する意図はない。連携・協働への参加のハードルを下げ、「構えずに関われる」イメージを伝えたいという思いからである。
- 委員： その趣旨であれば理解できる。気軽に楽しく活動できる団体の一例として紹介されることはありがたい。
- 委員長： 77ページの②のイメージ写真は何を示しているのか。
- 事務局： ②は長岡公園での民間活力導入（指定管理）を協働の取組として記載している。
- 委員長： 民間に任せきりではなく、市も関わる姿勢が重要である。国土交通省のTSUNAG認証制度があり、街区レベルでの国土強靱化、地球温暖化、生物多様性、ウェルビーイングなどの視点で評価している。その際には、公共と民間の緑地を一体的に評価することができるため、「連携」の視点が重要である。計画実施に向けての考えを伺いたい。
- 事務局： 国の制度動向については19ページで紹介している。現時点で具体的な導入には至っていないが、今後の施策検討の参考としたい。
- 副委員長： 先ほどの話とつながるが77ページの中で、民間事業者は指定管理者などの印象がある。やはり市民団体や専門家も含めた五角形などの図示も検討してはどうか。そのような修正も含めて検討してもらえたら、より「長岡京市らしさ」の活動が伝わるのではないか。
- 委員： ①②③と区分されているが、実際は複数主体が複合的に関わるケースが多い。星型など、多主体が同時に関わるのが伝わる図の方が実態に近いのではないか。
- 事務局： 分かりやすさを重視して整理しているが、ご指摘の通り実態は多様である。市民にとって理解しやすく、かつ実態を反映できる表現について、検討していきたい。
- 委員： ボランティア団体の高齢化が進み、新しい参加者が入りにくい。団体と参加希望者をつなぐ橋渡しの仕組みが庁内であるのか。各団体がどのような団体でどのような活動をしているかが分かりづらい。
- 事務局： 緑の協会が橋渡し役を担っているが、高齢化は大きな課題と認識している。交流イベントなど、一般市民が気軽に参加できる機会を設けており、71ページにはサポーター制度の推進を施策として位置づけている。今後も若い世代が参加しやすい仕組みづくりを検討していきたい。
- 委員： 緑の協会、観光協会、商工会、環境の都づくり会議、西山森林整備推進協議会など、本計画に関連する団体はいっぱいあると思うが、計画書で見えてこない。市内にどのようなみどり関係の団体があり、どこに相談すればよいのか分かりにくい。団体の存在や窓口をもう少し具体的に示せないか。
- 事務局： すべての団体を網羅的に掲載することは難しいが、活動が伝わるような工夫について検討したい。市民の行動につながる情報提供を意識していきたい。
- 副委員長： 78ページに団体紹介（団体名、活動内容、連絡先など）を記載してはどうか。
- 委員： ふるさとガイドの会でボランティアをしている。本計画では、歴史資源との連携もあり、関連する養成講座なども実施している。
- 委員長： 計画書の「はじめに」にも歴史的な内容に関する記載がある。歴史、文化を継承することが大事であり、そういった団体も含めて、市内の活動・取組が分かるような工夫

ができればお願いしたい。

事務局： 計画でそういった紹介もできればと思う。表現の仕方も含めて、検討できればと思う。

委員長： 計画策定まではどのようなスケジュールになるのか。

事務局： 本日の意見を反映し修正したものを委員長に確認いただき、手続きを進め3月末に策定となる。

委員： 39ページの高台通りの写真が現状と異なる。

事務局： 西山天王山駅の壁面緑化の写真へ差し替える予定である。

委員長： 2年間の振り返りとして、ご感想をいただきたい。

委員： 長岡公園の再整備の説明会に参加して、今回の委員の募集を知った。大変勉強になった。

委員： 貴重な学びの機会となった。

委員： 緑の協会としての課題は多いが、話し合いながら進めていきたい。

委員： 観光資源としての樹木や花は重要であるが、樹木などの大半は個人所有である。個人所有の緑の維持管理への支援も検討できないか。

委員長： 近年、緑や自然環境の保全活動を社会的に評価する制度が整いつつある。例えば、生物多様性の保全に資する取組を国が認定する「自然共生サイト」や、民間・地域の活動を可視化する仕組みが創設されている。また、生物多様性の保全・創出の効果を「クレジット」として評価し、企業活動等と連動させる制度の検討も進められている。

委員： 長岡京市は緑について熱心である。気温上昇や害虫発生など、新たな課題にも注視して取り組むことが重要である。

委員： 桜が高齢化し、いくつか伐採されている。伐採後は新たに植樹してほしい。公園が寂しくなることが心配である。

委員： 大変勉強になった。

副委員長： 外からの視点の意見を述べさせていただいた。歴史のある緑が長岡京の魅力である。本計画においても、社寺林が重要と示している。みなさんも協力し、計画を実現していくことを期待する。

委員長： 「農」が見直されている。国の政策的なところもあり、農地の市街化を含めてどのように対応するか。本計画は計画期間が20年と長く、その中での変化が想定される。社会動向を踏まえながら、進めていただきたい。

委員長： 本日の意見を反映した修正版については、事務局と委員長に一任でよいか。
(各委員一同、了承)

委員長： それでは、進行を事務局に返す。

4. 閉会

事務局：

今後のスケジュールは、修正内容を委員長確認のうえ、3月に策定。

3月をもって委嘱期間が終了する。今後の改定時等にも協力をお願いしたい。

今後とも計画の実現に向けた協力をお願いしたい。

以上